

※ 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。問いに字数の指定がある場合は句読点や記号も一字に数えて解答すること。

1 中学生の松本さんは、進路研究のために職業インタビューを行うことになり、近くのペットショップでトリマーを務めている中村さんのところに行きました。松本さんと中村さんの会話の一部【 】を読んで、①～③に答えなさい。



松本 なるほど。【X】
中村 お客様とコミュニケーションをとって、信頼関係を築くことですね。松本 ありがとうございます。とても勉強になりました。また後日、今回のインタビューの内容を新聞にしてお送りしますので、ぜひ、見てください。

① 松本さんと中村さんの会話の一部【 】の【a】～【d】には、次の(1)～(4)の内容が入る。それぞれに入る内容の組み合わせとして最も適当なのは、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

- | | | | |
|------------------|---------------------|------------------------|-----------------------------|
| (1) 仕事の内容についての質問 | (2) 中村さんの答えに対するあいづち | (3) 時間を取ってもらったことに対するお礼 | (4) 質問に対する中村さんの答えを、さらに深める質問 |
|------------------|---------------------|------------------------|-----------------------------|

- | | | | | |
|---|-----|-----|-----|-----|
| ア | 【a】 | 【b】 | 【c】 | 【d】 |
| イ | 【a】 | 【b】 | 【c】 | 【d】 |
| ウ | 【a】 | 【b】 | 【c】 | 【d】 |
| エ | 【a】 | 【b】 | 【c】 | 【d】 |

② 【X】について、松本さんは――の部分での中村さんのやり取りを踏まえて、ことばを加えた。【X】に入れるのに適当なことばを、二十五字以内で書きなさい。

③ 〰〰の部分、適当な尊敬語を使って書き改めなさい。

2 次の文章は、松尾芭蕉『野ざらし紀行』の二節について、原文を引用しつつ書かれた解説文である。原文は、母親の葬儀に帰っていない芭蕉が母の墓前に参るために、故郷の伊賀上野、現在の三重県伊賀市に帰ったときのことを記した部分である。これを読んで、①～④に答えなさい。設問の都合で、本文を一部省略ないし表記を改めたところがある。

長月の初め、古郷に帰りて、北堂の萱草も霜枯れ果て、今は跡だになし。何事も昔に替はりて、はらからのびん白く眉しわ寄りて、只「命有りて」とのみ云ふて言葉はなきに、このかみの守袋をほどきて 母の白髪おがめよ、浦島の子が玉手箱、汝がまゆもやゝ老いたり」と、しばらくなきて。



二九歳のときにこの故郷を出てから一二年にもなる。その間の三四歳のときに一度帰ったきりであった。母がいた北堂すなわち別棟の部屋の前庭に植わっていた萱草もすっかり霜で枯れ果てていた。兄と四人の姉妹のびんも白くなり、眉根にはしわが増えていた。まさに浦島の子であった。兄弟姉妹六人がたがい手をとり合って再会を喜び、よくもまあ、ともにここまで生き永らえたと、涙があふれるごとくに泣き合う。仲のよい兄弟であつたらしい。ぼろぼろになった破れ笠をかぶり、よれよれになった紙衣を着た、まさに乞食姿のみすぼらしい芭蕉を兄と姉妹たちは世間体など気にせず歓喜をもって迎えたのである。兄から渡された形見の母の白髪を、死に水をとれなかったことを詫びながら握りしめ、兄の お前もずいぶん白くなったなあ」のいたわりのことばに涙の止まらない芭蕉であった。そしてつぎの句を詠む。

母の形見の白い遺髪を手になると、思わず涙が流れて、その熱い涙で母の白髪が、秋の露のごとくはかなく消え去るような思いがする、という。九月初めとは陰暦のことで、陽暦でいえば一〇月の中ごろである。盆地の伊賀上野は霜の季節になった。西行も詠んだように、すぐに消えゆくはかない露に世の無常をみたのである。心に迫る句である。

① 「命有りて」の現代語訳に当たる部分を、解説文から抜き出して書きなさい。

② 「まさに浦島の子であった」とあるが、兄弟のどのような状況を表現したのか。それがわかる部分を、野ざらし紀行』の原文から十字以内で抜き出して書きなさい。

③ 「心に迫る句」とあるが、これについて説明した次の文の【X】～【Z】に入れるのに適当なことばを、解説文からそれぞれ四字以内で抜き出して書きなさい。

母の形見の白髪が自分の涙で【X】のように【Y】消えてしまいうさだと詠む芭蕉の俳句に、筆者は【Z】を感じ取り、胸打たれてい

- ④ 野ざらし紀行』は松尾芭蕉によって書かれた「紀行文」と呼ばれる種類の作品であるが、これと同じ種類の作品は、ア～エのうちではどれですか。一つ答えなさい。
- ア 徒然草 イ おくのほそ道
ウ 平家物語 エ 方丈記

次の文章は、大学生の「和磨」が災害ボランティアのバスツアーを企画をして、山浦という被災地域で活動している場面である。「和磨」はボランティアメンバーの遠藤や成子から離れ、被災者である田中の元に向かっている。これを読んで、①〜⑥に答えなさい。

四枚のうちの二枚め

作業時間は残り三十分になっていた。遠藤も無理はしない範囲で作業に復帰している。解散するまで、油断はできないけれど、作業自体はこれ以上のトラブルが発生することなく終われそうだった。

田中のじいさんは木陰であくびをしている。てっきり成子が田中に真相を伝えるのかと思ったら、あなたに①「マカせるわと言って作業へ戻ってしまった。」

成子のほうが、会話が成立しやすいのは明らかだ。それなのに、どうして和磨に委ねたのだろう。田中に文句を言われるのは癪だが、驚く顔も見なかった。推理を伝えれば、絵などいらぬと言いつつ田中の表情は一変するはずだ。

貴重品置き場にあるクッキーの缶を持って、和磨は田中の元に向かう。ちよっといいっすか」

田中は眠そうな目で和磨を見上げた。

なんだ」

② さっきの絵をもう一回見てもらっていいっすか」

知らねえと、ずうっと言ってるべ」

ぞんざいな田中を無視して缶を地面に置く。汚さないようにしながら、先ほどよりも気を遣って絵を取り出した。

この絵の画用紙には泥が染みえていますよね。でもよく見ると、汚れとは関係なく元から紙が黄ばんでいます」

何の話をしてんだ」

この紙が古いつつすよ。どこでちやぶ台の上に、四角くて白いものがありますよね。数字の5が入っていて、その隣に黒い線があります。これがこの絵の鍵だと思っすよ」

先ほど成子から受けた説明を再現する。田中は億劫そうにしながらも絵に視線を向けていた。四角い白に黒い線、そして数字の5。答えを知っている優越感からか、口調が回りくどくなる。

それがどうした」

これは多分、葉書だと思っすよ」

白い長方形はちやぶ台の大半を占めている。だから実際のサイズと比較すれば、葉書より大きいだろ。だけど子どもの絵では、目に入ったものを大きく描くことは珍しくないと成子が言っていた。

なんだと」

田中は眉間にしわを寄せて、絵に顔を近づける。ようやく興味を抱きはじめてきたようだ。④ 推理の本番はこれからだった。

葉書だという理由はいくつかあります。左上にある数字の5は多分切手です。そうなると数字の横にあるくねくねした線は文字つすよね。達筆な草書体なら、子どもには文字だとわからないはずですよ」

田中は絵から視線を動かさない。絵の描き手を、思い出しはじめているのかもしれない。

五円切手で葉書を出せたのは、昭和二十六年から昭和四十一年の間だけ。つまり四十五年から六十年前のことなんです。赤い服を着ている小さいのは、女の子ですよ。これは幼馴染みだった、田中さんの奥さんじゃないっすか」

切手が使われた正確な年代は、携帯電話を使って和磨が検索した。結論を言おうと息を吸い込んだところで、先に田中が口を開いた。

この下手な絵を描いたんは、おらだ」

成子の推理では、田中と奥さんのどちらが描いたかまでは特定できない。しかし成子は、奥さんが旦那の絵を大事に保管していたと考えていた。その推測も正解だったようだ。大きな人間は田中か奥さん、どちらかの家族なのだろう。

田中はひたたくるように和磨の手から絵を奪う。黙ったまま、しばらく紙の上に視線を落とす。顔を上げた田中はまず、田んぼを見つめた。次に山沿いへと視線を向ける。おそらくその方向に家が建っていたのだろう。

あいつはこんなもんを、後生大事に取っていたんか。おらに黙って押し入れの奥さ、しまっておいたんか」

田中は絵の表面に、しわだらけの指を這わせる。

⑤ 二つの後ろにある筆管はな、右の側面にあいつの落書きが残ってたんだ」

⑥ 田中の姿が急に小さくなったように感じられた。先ほどまでの頑固じいさんの面影はどこにもない。

あいつのいねえ家に、未練はねえと思ってた」

奥さんを亡くして、すっかりしよげていたと鯉崎は言っていた。

和磨は大学のカウンセリング心理学の授業で習ったことを思い出す。ふだんはまともに勉強をせず、覚えている内容もほとんどない。それでも田中の茫然とした表情に、和磨の記憶は呼び起こされた。

急な事故や病気で配偶者を失った人が、極端に無気力な状態に陥ることがある。麻痺や回避と呼ばれていて、未来の⑦ テンポウや趣味などあらゆることに

興味を抱けなくなるのだ。

専門家ではない和磨には断言はできない。しかし家にあつたものを不要だと言いつつしたのは、震災による心の傷が原因なのではないかと考えた。

全部、流されたんだなあ」

田中の目の端に、小さな涙の滴が浮かぶ。はじめて山浦を訪れたとき、和磨は自分も涙を流したことを思い出した。そして急に、そのことが恥ずかしく思えた。

本当に泣きたいのは被災者なのだ。彼らは何度も涙を流しながら、それでも歯を食いしばり戦っている。同情の涙に意味なんてない。それどころか底の浅い共感、被災者に対する冒涇だ。

おい、若い。名前さ教えろ」

はい、えっと、大石和磨です」

感謝されることを期待していた。ありがたうと言われて、いい気になる自分を想像していた。そのことを叱られるような気がして、怯えながら身を固くさせる。

しかし田中は柔らかな笑みを浮かべ、和磨に向けて深々と頭を下げた。

大石くん、ほんにありがたうな」

感謝される資格はないと、和磨は喉まで出そうになる。田中がどれだけ辛い思いしているのかを想像しようとしなかった。被災者と向き合う上で最も大切で、最低限必要なことを疎かにしていたのだ。

⑧ 情けない気持ちでいっぱいになるけど、和磨は何も言えない。すべてが言い訳になるように思えて、黙っていることしかできない。

出典 友井羊 ボランティアバスで行こう」

(注) ① 二つ 二つと同じ。

鯉崎——被災情報をインターネットで発信している山浦在住の男性。

冒涇——神聖なもの、尊厳のあるものの権威をおかし、傷つけること。

① ———の部分⑥、①を漢字に直して楷書で書きなさい。

② 「油断はできない」とあるが、これと同じような意味で使うことのできる慣用句として最も適当なのは、ア〜エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 気が抜けない イ 気が置けない

ウ 気が乗らない エ 気が回らない

③ 「さっきの……に置く」とあるが、和磨が無理に話を進めようとしている理由となる一文をここより前の文章中から抜き出して、はじめの五字を書きなさい。

④ 「推理」とあるが、その内容について説明したものとして当てはまらないものは、ア〜エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 絵の画用紙は汚れと関係なく紙そのものが黄ばんでいるので、昔の絵だということ。

イ 四角くて白いものの左上に5とあり文字らしき線も見えるので、これは葉書だということ。

ウ 白い長方形の中の数字の5は五円切手だと思われるので、これは四十五年から六十年前の絵だということ。

エ 絵の中の赤い服の女の子は奥さんの家族なので、奥さんが絵を大切に保管していたということ。

⑤ 田中の姿が……感じられた」とあるが、この部分を説明したものととして最も適当なのは、ア〜エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 和磨は、陽気にふるまっていた田中が実は心に深い傷を負って苦しんでいたことに驚いている。

イ 和磨は、いつも頑固な田中を自分たちの推理でやりこめることができたことに満足している。

ウ 和磨は、今まで強気だった田中が亡き妻に思いをさせて突然気落ちした様子になったこととまどっている。

エ 和磨は、無気力だった田中が妻のことを思い出して元気を取り戻したことに喜びを感じている。

⑥ 「情けない気持ちで……言えない」とあるが、この部分を説明した次の文の□□に入れるのに適当なことをばを、四十字以内で書きなさい。

良いことを情けなく思ったが、何を言っても言い訳になるように思えて黙っている。

地球上での生物の始まりを追っていくと、オーストラリアやアフリカに三四億年前のストロマトライト(細菌類と鉱物とが重なり層を作ったもの)の化石が見つかります。どこで生まれたかは別として、三八億年前には、現存の生きものたちの祖先が海中に存在していたと考えてよいでしょう。ですから、生命誌絵巻の扇の要は三八億年前です。そこに祖先細胞(現存の生物の中ではバクテリアが最も近い)が存在し、三八億年かけてそこからすべての生きものが生まれてきたのです。

この絵巻の語っていることの第一は、祖先は一つということです。これほど多様な生きものが皆一つの祖先から生まれた仲間だということです。これは現在の生物学の見方の基本となる大事なことです。

次にこの図が扇形であること、つまり要から天までの距離はすべて同じであるということの意味を考えます。それは、天に描かれているバクテリア、キノコ、ヒマワリ、イモリ、カワセミ、リス、ヒト……どれも皆三八億年という時間があつて今ここに存在しているということなのです。この過程を進化と呼びます。

バクテリアが誕生したのは、三十数億年前だったでしょう。しかしその後まったく変わらずにいたのではありません。バクテリアはバクテリアとしてさまざまな能力を獲得しながら、言いかえれば進化をしながら今に続いています。つまり、今私たちのまわりにいるバクテリアは三八億年という歴史を持つ存在なのです。

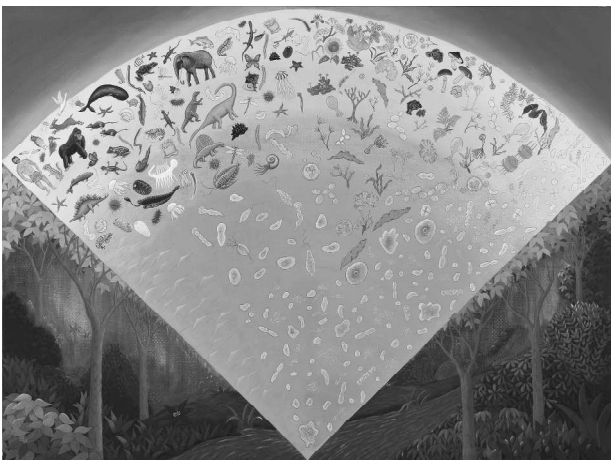
鳥類の化石として知られている最古のものは一億五〇〇〇万年ほど前のものとされています。絵巻に描かれているカワセミは、その後の鳥の仲間の進化の中で生まれてきたわけですが、最初の鳥類誕生までの進化がなければ存在しないのですから、カワセミの中にも三八億年の歴史があります。リスもヒトも同じこと、すべての生きものが三八億年という時間がなければ今ここに存在しないという事実を忘れてはなりません。

眼の前を小さなアリが這っていると、なにげなくつぶすこともあるのではないのでしょうか。でもその時、このアリの中に三八億年という時間がある、それだけの時間があつて、このアリはここにいるのだと思つたら、そう簡単にはつぶせなくなります。いのちの重みという言葉には多くの意味が含まれています。このとてつもなく長い時間も重みの一つに違いありません。

もつともここで、これほど重いものだからどんなのちも失わせてはならないなどときめつけたら大変なことになります。私たちが毎日野菜やお肉を食べていることからも明らかなように、生きものいのち他いのちの上に成り立っているものなのです。ただ、すべての生きものが同じように持つ重みを感じて行動する。これが絵巻から読みとれる二つ目のことです。

第三は、東日本大震災の体験と強く結びつくテーマです。扇の天の左端に(別に端であることに意味はありません、どこでもよいのです)人間がいます。人間を生きものとして見る時、生物学ではヒトと呼びます。リスやゴリラの近くに、しかしヒマワリやキノコやバクテリアともつながった存在としてここにいて、それが、大間は生きものである」という文言の内容です。

人間は、一つの祖先から生まれた仲間であること、三八億年という時間を体の中に持つことと二つの性質を他の生きものと共有しています。大間は生きものである」という、字面を見る限りあたりまえすぎるほどあたりまえのことを改めて考えようとしているのは、現代社会は私たちがこの扇の中にいるということを経験してきていないからです。



生命誌絵巻

現代の社会での人間のありようをここに描くなら、扇をはずれた上のほうに置くことになり。他の生きものたちとは別のところ、つまり自然の外にいてという姿です。しかも少し上のほうから眺めて、生物多様性を考えましようとか、地球に優しくしましようなどと言っているのです。でもそれは間違っています。中にいる。人間は生きものであるということ、他の生きものたちとのつながりの中にいる」という感覚を持つべきです。

野生生物の生活の厳しさは文明生活をしている私たちには想像し難いものです。その中で生きものたち一つ一つは懸命に生きています。そこには闘いがあり、環境からの選択があり、他の生きものとのことを思う。余裕などありません。しかし、その中で特定の生きものだけが残ることはなく、多くの生きものが相互に関係を持ちながら生きる生態系ができてきたのです。基本的には人間もまた、この生態系というネットワークの中に存在しているものであり、そこから抜け出すことはできません。これは決してマイナスの感覚ではなく、これほど豊かな生きもの世界の「員」として生きることの面白さを探しましようという提案です。

出典 中村桂子 科学者が人間であること

(注) 東日本大震災の体験——筆者は東日本大震災を体験し、大間は自然の中にいる」という感じを失つてよいのだろうかという問いを持った。

① ———の部分⑤、①、②の漢字の読みを書きなさい。

② 「いる」と活用の種類が同じ動詞は、ア、オのうちどれですか。当てはまるものをすべて答えなさい。

ア 建てる イ 保つ ウ 来る エ 恥じる オ 着る

③ 「要」とあるが、ここでの「要」が表す内容について説明したものとして最も適当なのは、ア、エのうちではどれですか。一つ答えなさい。

ア 海中に存在していた間
イ 現存の生きものたちの祖先
ウ 生物学の見方の基本
エ さまざまな能力の獲得

④ 「すべての……重み」とあるが、ここで述べられている「重み」の具体的な内容について、文章中のことばを使って四十字以内で書きなさい。

⑤ 「人間は……持つことです」とあるが、生きものとしての人間に関する筆者の考えを説明した次の文の□□に入れるのに適当なことばを、文章から二十五字で抜き出して書きなさい。

人間は、他の生きものたちが生きる自然の外にいてのではなく、□□の中に存在している。

⑥ あなたは国語の授業でこの文章を学習して、文章中の□□の部分と□□の部分とについて、先生から次のような説明を受けた。これを読んで、(1)、(2)に答えなさい。

この□□部分のカワセミに関する説明は、□□部分のバクテリアに関する説明を参考にして、次のように言い換えることもできます。

【板書】

カワセミなどの鳥類の化石は一億五〇〇〇万年ほど前のものが最古とされています。しかし実際は、□□と、その後続く鳥の仲間の進化の中で、カワセミは生まれてきたのです。つまり、カワセミの中にも三八億年の歴史があります。

板書のように言い換えてみると、□□部分と□□部分とは、カワセミとバクテリアを例として、同じことを述べていることが確認できます。また、ここで用いられている「□かし」や「つまり」といった接続語を効果的に用いることで、文や文章の構成をわかりやすくすることができます。

(1) □□に入れるのに適当なことばを、□□の部分から抜き出して書きなさい。

(2) 先生の説明を踏まえて、若者の読書離れ」というテーマで、条件に従つて百字以上百二十字以内で書きなさい。

条件

1 「□かし」「つまり」をこの順で文の接続に用いること。

2 あなたの考えと、あなたがそう考える理由や根拠を明確にして書くこと。